

いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書

2010年版



Contents

理事長ごあいさつ 2	組合員活動 15
期待とお祝いのメッセージ 3 20周年迎えたいわて生協	運営 19
地産地消を強めるとりくみ 5 商品開発 産直運動 生産者との共同	環境活動報告書 21 環境方針 地球温暖化対策 09年度の活動の前進面 リサイクルの実績 環境マネジメント活動の成果 環境活動の金額的評価
商品の安全を確保するとりくみ 9	いわて生協のすがた 33 組織概況 09年度決算概況 事業所一覧
事業活動 11 店舗 共同購入 共済 介護・福祉 葬祭 住まいと暮らしのサービス 南昌荘	

いわて生協のめざすもの

私たちいわて生協は、〈地域〉〈協同〉〈食〉〈環境〉〈平和〉の5つを大切に、ひとりでは実現できないくらしの願いをみんなで話し合い、たくさん実現していくことをめざします。

地域

私たちは、「人間」がもっとも大切にされ、だれもが安心してくらす社会と、人と人とのつながりを強め、伝統・文化などが大切にされる地域をめざします。

協同

私たちは、ひとりでは実現できないくらしの願いを、多くの人や団体・協同組合との協同の力を強め、みんなで実現していくことをめざします。

食

私たちは、「安全・安心・健康な食生活」にこたえる運動・事業をさらに強め、食の安全と農林漁業を守り、食料自給率を高めることをめざします。

環境

私たちは、環境負荷を減らす事業とくらしの見直しをすすめ、子どもたちに持続可能な地球環境を残すことをめざします。

平和

私たちは、くらしの基本である平和を守っていくことを、未来を担う子どもたちといっしょにすすめます。



いわて生活協同組合
理事長 飯塚明彦

よりよい地域社会をめざして 協同・連帯の力を 発揮してまいりましょう

日ごろ皆様にはいわて生協の事業と活動へ大きなご支援をいただき、心から御礼申し上げます。

いわて生協は今年20周年を迎えました。1990年3月に盛岡市民生協、岩手県民生協、北上市民生協、釜石市民生協、けせん生協、岩手県学校生協宮古地域の6つの生協が合併・合流していわて生協が生まれました。この20年間で組合員数は8万8千人から19万4千人へ、出資金は14億円から67億円へ、供給高は184億円から348億円へ成長しています。この到達点を築くことができたのは、組合員の「出資・利用・運営」を強めてきたことに加え、多くのお取引先、生産者、協同組合の仲間の皆様、友誼団体・個人の皆様のご支援・ご協力によるものと感謝申し上げます。

2009年度は、組合員の暮らしといわて生協をとりまく状況が厳しい中で、第6次中期計画の初年度として、新規出店としては7年ぶりとなるベルフ牧野林をオープンでき、共同購入利用者やたすけあい共済の着実な増加、組合員の自主的な活動の広がりなど、多くの成果を残すことができた一年でした。環境活動においても、着実な成果をあげることができました。

20周年を機に、合併発足時に決意した「暮らしを守る運動を強め、競争に負けない事業経営を築き、よりよい地域社会と地域経済に貢献できる生協をつくる」初心を再確認したところでございます。第6次中期計画で掲げためざすもの「地域」「協同」「食」「環境」「平和」を大切に、今後も地域の皆様と協同・連帯して一人ひとりでは実現できない願いを一つひとつ実現してまいります。皆様のいっそうのご支援・ご協力をお願いし、ごあいさつといたします。

いわて生協20周年にあたり、期待とお祝いのメッセージをいただきました。



地域とのつながりを大切にし、より良い「いわて」の実現へ

岩手県知事 達増拓也さん

県では、昨年12月に『いわて県民計画』を策定しました。この計画は、「ゆたかさ」、「つながり」、「ひと」の3つの視点で、岩手の未来を描き、実現することを目指しています。

いわて生協においても、地域に根ざして活動できる「ひと」を大切にし、更には、「ひと」と「ひと」との「つながり」、すなわち地域での「協同」により、ひとりでは実現できない暮らしの願いや思いを実現することを目指していると承知しています。こうしたいわて生協の目指す方向性は、県民の願いである豊かな自然や安全・安心な暮らしなど、世界に通用する「ゆたかさ」の実現を目指す『いわて県民計画』と相通じるものがあります。

特に、生協が力を入れている共同購入事業は、1万人を超える利用者で拡大していると聞いており、地域で暮らす県民のつながりや安心した暮らしを支えるものであります。

また、産直運動を中心とした地産地消の取組は、地場生産物の普及、食料自給率を高めるとともに、地域経済の活性化にも資するものです。

いわて生協におかれては、これからも住みよい地域づくりを目指し、自治体や地域の諸団体との連携を密にし、積極的に地域へ貢献されることを期待しています。

- 2001年 第四次中期計画策定 ● 消費税増税反対！八ガキ運動」に3000枚
- 「セリオ葬斎会館」オープン（現セリオホール中野）
- 2002年 ● 「組合員カード」スタート ● 「コープアテルイ」（奥州市）オープン
- 「食の安全行政の抜本的強化を求める署名」に9万8040筆
- 2003年 ● イラク戦争に反対する「緊急集会」「県民集会」開催（翌年から「世界の平和を願う市民のつどいin岩手」として開催）
- 「産直公開安全確認会」スタート
- アイコープ生かきの「トレーサビリティ」スタート
- 2004年 ● 「コープ高松」建て替えオープン ● アイスタイル商品」誕生
- 2005年 ● 介護・福祉センター「あい」開設、介護・福祉事業スタート
- コープ山岸が「ベルフ山岸」に生まれ変わってオープン
- コープ関コルザで「地産地消フェスタ」スタート
- 牛乳・わかめ産直30周年
- 2006年 ● 新しい食品添加物基準スタート
- 「憲法9条を守る署名」県内諸団体とともに20万筆国会へ提出
- 第五次中期計画策定
- 東北5県10生協の連帯で「新」共同購入スタート
- 「セリオホールみたけ」オープン
- 「家計応援5%引きの日（毎月15日）」スタート
- 2007年 ● 「産直収穫祭」スタート ● 映画「日本の青空」上映推進
- 灯油高騰で「福祉灯油」を要請し、県内全市町村で実現
- 2008年 ● 一関市と「災害時における協力に関する協定」締結
- 「もうがまんでできない！原油高！消費者・生産者・事業者緊急集会」に12団体800人。「緊急署名」は全体で7万3685筆
- 「生協牛乳酪農家応援」募金200万円、搾乳用タオル4千枚、応援メッセージ376通
- 「食料自給率向上を求める署名」に県内諸団体とともに5万2107筆
- コープアテルイ「地産地消フェスタ」スタート
- コープまつそのが「ベルフまつその」に生まれ変わってオープン
- 2009年 ● 「にしが山の市場」スタート
- 映画「いのちの山河」製作・上映運動 ● 第六次中期計画策定
- 「ベルフ牧野林」オープン ● 「セリオホール緑が丘」オープン
- コープ共済連に加入（元受共済事業譲渡）
- 2010年 ● 今松野菜生産組合産直30周年
- コープ西町建て替えのため一時閉店。7月「ベルフ西町」に生まれ変わってオープン予定
- 20周年で記念事業展開中



「コープの森づくり」調印(2010)



セリオホールみたけオープン(2006)



イラク戦争に反対し、平和を求めて行進(2003)



「共に行動・参画」をめざして

岩手県農業協同組合中央会 会長 長澤壽一さん

いわて生活協同組合の創立20周年を、心よりお祝い申し上げます。

さて、今日の私たちを取り巻く情勢をみますと、金融危機に端を発する世界的な景気減退を受けて、市場原理主義への過度な偏重を見直す動きが強まっています。昨年12月の第64回国連総会において、12年を「国際協同組合年」とする宣言が採択されました。国連がこの時期に協同組合活動を評価し、さらなる期待をするに至った背景には、このような事情があるのではないのでしょうか。

また、国内においても食料自給率の低下、食生活の多様化等により「食」と「農」の間に大きな乖離が生じているといわれ、生産現

場に対する国民理解の低下、ひいては「国内で消費する食料を生産する権利」すら失ってしまうことになりかねません。本県においては、いわて生協組合員の皆様と我々生産者が中心となり、「食」の大切さ、「食」を支える「農」の役割、「地域の食文化」等について、相互理解をより強固なものとしてまいりました。そしてこれからは、さらに一歩進めて「共に行動・参画」をより意識した活動が必要と考えております。

今後とも、「純情産地いわて」の「食」と「農」へのこだわりをしっかりと共有しながら、取り組んで参りたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

20年のめゆめから

1990年 いわて生協誕生

●盛岡市民生協、岩手県民生協、岩手県学校生協宮古地域、釜石市民生協、北上市民生協、けせん生協が合併

1991年

●第一次中期計画はじまる ●商品検査室を開設
●たすけあい共済(3コース) 取り扱いスタート
●台風被害お見舞いカンパ200万円(産直りんごの東長岡果樹生産組合)

1992年

●コープ東北サンネット事業連合設立・参加

●コープチエリオ(県立宮古病院内)オープン ●コープとベルいわて開設

●コープくらしの助け合いの会発足

1993年

●葬祭事業「セリオ葬」スタート ●小中学生の勉強教室「コープスクール」開設
●冷害お見舞いカンパ253万円(産直先のJ A西和賀・北上・紫波・矢巾へ)

1994年

●第二次中期計画・福祉活動5か年計画策定

1995年

●2万人を超える県民の募金により平和祈念像「望み」建立

●「食品の安全と健康を守り、食料自給率を高める政策を求める請願署名」に県内諸団体とともに5万8690筆

1996年

●コープ一関COLZAオープン

●消費税負担実感ア(毎月1日)スタート

●マリンコープDORA(宮古市)オープン

1997年

●第三次中期計画策定

●「遣伝子組み換え食品の表示義務化と安全性チェック強化を求める署名」に県内諸団体とともに8万4420筆

●共済事業の元受認可取得

1998年

●アイコープ商品総点検運動

●「消費税を3%に戻し、食料品非課税を求める署名」に県内諸団体とともに8万2866筆

●コープ青山が「ベルフ青山」に生まれ変わってオープン

1999年

●「ポラン農業小学校」開校 ●文化鑑賞会「クオレ」設立

2000年

●「遣伝子組み換え食品の表示見直しを求める署名」に6万1301筆

●「コープ花北オリザ」オープン ●明治の邸宅「南昌荘」一般公開

●コープ仙北が「ベルフ仙北」に生まれ変わってオープン

●共同購入個人配達開始

●環境マネジメント国際規格「ISO14001」認証取得



遣伝子組み換え食品の表示見直しを求めて署名提出(1997)



コープ一関COLZAオープン(1996)



第1回総代会(1990)

県内メーカー・生産者と共同した開発品が15.7億円規模に



アイコープ商品・アイスタイル商品は、いわて生協が独自に開発・供給している商品です。できるだけ岩手県産・国産の原料を使い、できるだけ岩手県内の工場で製造。地場産業・産品の育成にもつながっています。

2009年度の年間供給高は15.7億円になり、総供給高の7%を占めています。

アイコープ商品・アイスタイル商品の供給実績(2009年度)

分類	供給高	開発商品供給高	開発商品構成比
農産(野菜)	34.2億円	0.3億円	1%
水産	37.3億円	1.7億円	5%
畜産	25.5億円	0.9億円	4%
日配	61.5億円	10.6億円	17%
米	5.1億円	1.1億円	21%
食品類	50.5億円	1.0億円	2%
雑貨類	17.1億円	0.1億円	1%
計	231.9億円	15.7億円	7%

※開発商品がない部門分類は記載していません。
※産地生協牛乳群と真崎わかめを含みます。

1万2千人の組合員が開発・改善に参加

2009年度は6品目を新開発し5品目を改善。アイコープ商品は127品目、アイスタイル商品は14品目になりました。この開発・改善活動では組合員約1万2千人が試食や商品学習に参加。商品を作り育てる大きな力になっています。

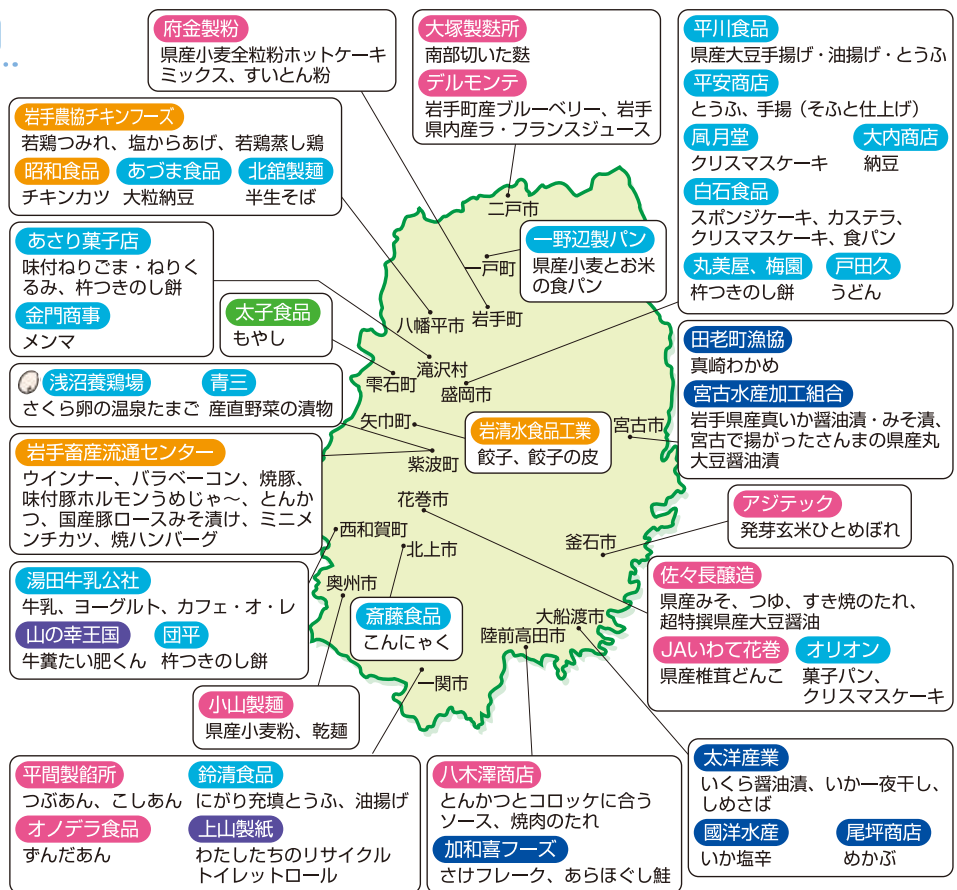


新開発したアイコープ焼ハンバーグ(2009年8月発売)。



アイコープ焼ハンバーグは、盛岡南コープの組合員が開発し、店内でのおすすめ活動にも取り組みました。

地元メーカーとの共同開発マップ(2010年3月時点)



2009年度開発・改善した商品

開発商品	改善商品
① アイコープ今松さんのキャベツを使った餃子	① アイコープ味付け数の子(白醤油)
② アイコープ産直野菜の漬物(大根)	② アイコープ味付け数の子(明太味)
③ アイコープ産直野菜の漬物(キャベツ)	③ アイコープ味付けぼん酢ゆずの香り
④ アイコープ挽きたて半生そば	④ アイコープ県産みそ
⑤ アイコープ焼ハンバーグ	⑤ アイスタイル低脂肪ヨーグルトプレーン
⑥ アイスタイルとろ〜りなめらかヨーグルト	

行政やJA生産者と共同の活動が拡大

2009年度は、「みやこうまいもの市」をベルフ仙北・ベルフ青山で10回開催し、「地産地消フェスタ」はコープ関コルザ、コープアテルイで開催しました。また「にしわが山の市場」も新たにスタート。共同の普及活動はのべ26回にのぼり、105団体・業者のみなさんが参加。県内農林水産物の普及の輪が広がりました。

企画名	会場	出店者数
みやこうまいもの市	ベルフ仙北(10回) ベルフ青山(10回)	14業者
第5回コープ関コルザ地産地消フェスタ	コープ関コルザ	36団体
第2回カルチャーパークあてるい地産地消フェスタ	カルチャーパークあてるい	29団体
あべじゃネットフェア	コープアテルイ(10回)	15団体
にしわが山の市場	ベルフまつぞの(4回)	11団体



2009年度初めて開催し大好評だった「にしわが山の市場」(ベルフまつぞの)。

盛岡・滝沢地区では初めての「地産地消フェスタ」。2万5千人が参加しにぎわいました(2010年5月ベルフ牧野林)。



店舗・共同購入で県産食材の普及

店舗では毎月第4週目に「岩手を食べよう」企画を継続実施。「産直収穫祭」では、組合員も試食やおすすめに大活躍。共同購入の商品案内で



「産直収穫祭」では、試食や食べ方提案などに取り組みます

月2回、産直品・アイコープ商品の企画と情報発信をすすめたほか、新たに「産直収穫祭」も取り組みました。

地場産品のよさにふれるツアーも好評

体験を通じて地場産品のよさに直接ふれ、生産者と交流を図るツアーも人気が高まっています(コープトラベル主催)。2009年度は6回の企画に134人が参加し、岩手の味と生産者との交流を楽しみました。



大船渡で、いくら作りを体験。

企画名	会場	参加者数
かたくりの花 近隣の山林散策	西和賀町	18人
真崎海岸うにまつり・わかめの芯抜き体験	宮古市	20人
観光船で行く重茂漁協「味まつり」	宮古市	26人
岩泉山ぶどう収穫体験とジャムづくり	岩泉町	19人
田老・鮭あわびまつり・いくら作り体験	宮古市	13人
大船渡かき祭り・いくら作り体験	大船渡市	38人

組合員の集まりで多彩な活動

秋のコープのつどい・お茶会では、「もっと知ろう! もっと利用しようコープ商品」をテーマに学習や試食を実施。「アイコープ焼ハンバーグ」の利用は計画の4倍となりました。また、第6次中期計画にもとづき、コープ商品や産直品のファンを広げる活動もスタート。クッキングアドバイザー(25人を養成)を講師に食べ比べや料理教室を開催するなど、様々な場で普及が取り組まれています(65企画に1,092人が参加)。



秋のコープのつどいでは新開発の「焼ハンバーグ」を試食・学習しました。

いわて生協の産直活動は、単に産地直送ではなく「顔とくらしの見える関係」づくりを大切にしています。生産者と組合員・消費者が交流を通してお互いの生産と生活の実情を知り、日本の農業と食料を守り発展させていく産直運動として推進しています。

産地交流に組合員1,707人が参加

2009年度も、生産者との交流に多くの組合員が参加しました。

産地訪問交流は68回企画され、参加者数はのべ1,707人と、前年度の120%の参加となりました。交流で確認できた農畜水産物のよさを周りの組合員に伝えて、利用を拡大する努力も続けられています。

産地で体験する農作業の体験や生産者から聞く生の声は、食と農業の深い理解につながり、持続的な産直運動を支える力になっています。

企画名	開催地・回数	参加人数
産地交流会・産地見学	59回	1,233人
生協牛乳ふるさと訪問	西和賀町、金ヶ崎町 各1回	38人
牛乳ソムリエセミナー	西和賀町2回	47人
産直米交流会	4コープで企画	371人
お飾り祈願祭	西和賀町1回	18人
合計		1,707人

店舗の「地場産直コーナー」推進中

前年のベルフまつぞのに続いて、2009年度は「地場産直コーナー」をベルフ牧野林に導入。地元滝沢村の生産者でつくる「牧野林産直会」のみなさんが出荷しています。地場生産の鮮度のよさや、生産者が身近で親しみを感じられる点が好評です。2010年オープンするベルフ西町（宮古市）にも「西町産直会」の産直コーナーが設けられます。



ベルフ牧野林に導入した「地場産直コーナー」。



生協牛乳ふるさと訪問で酪農家と交流（西和賀町）。

キウイ低温障害に応援カンパ

2009年度、JAおおふなどの産直キウイフルーツは、低温による着果障害で収穫が前年の5分の1に激減。それを知ったけせんコープの組合員が激励のカンパ活動を展開しました。共同購入のけせん支部常勤者も応援カンパと寄せ書きに参加し、新たな交流が深まる機会になりました。



応援カンパに取り組んだけせんコープのみなさん。



一関コープの組合員と江刺ピースの交流は2009年度スタートし、今年も取り組んでいます。

県内のJA・生産者団体34グループと提携しています

いわて生協の 産直三原則

- 1 生産地と生産者が明確であること
- 2 栽培、飼育方法が明確であること
- 3 組合員と生産者が交流できること

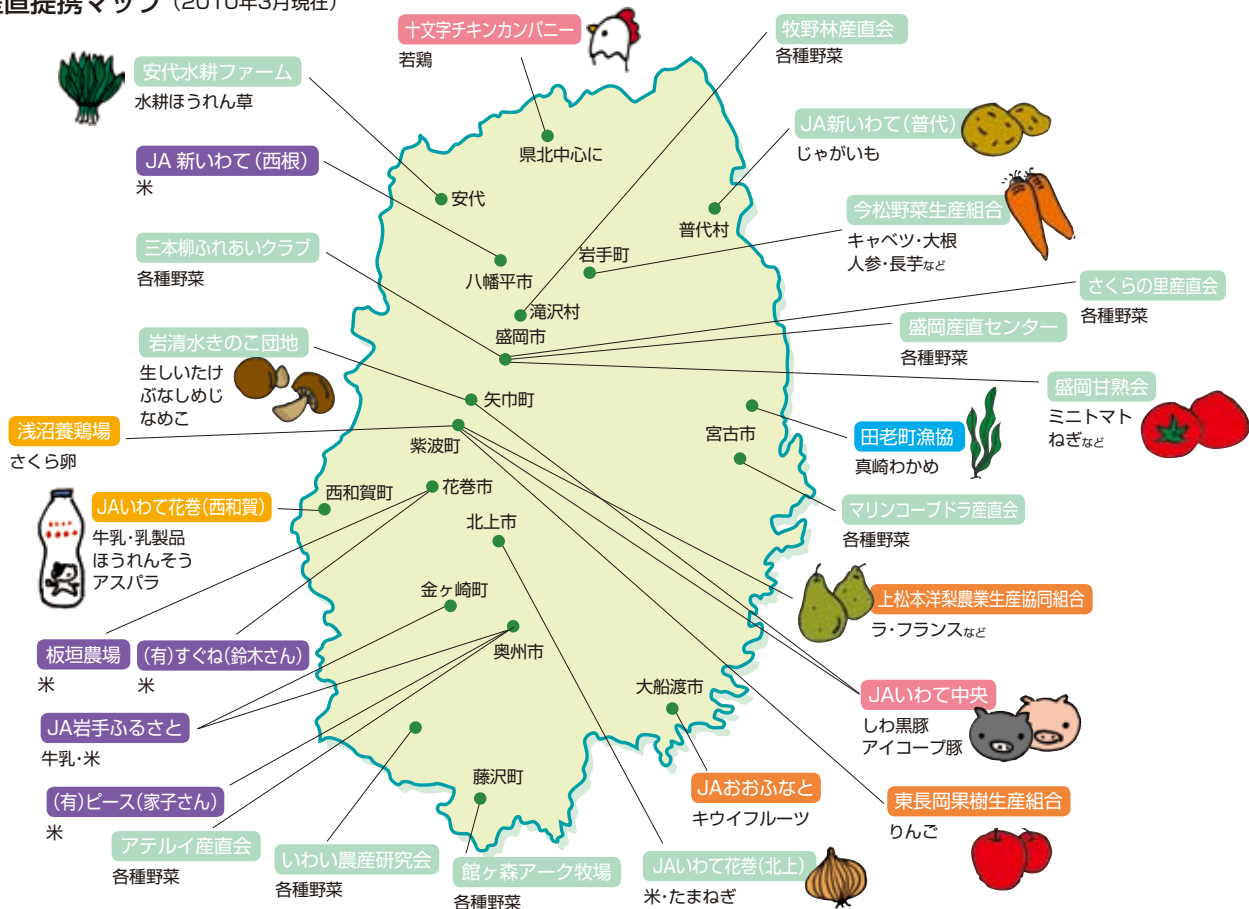
いわて生協 産直基準

- 1 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- 2 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- 3 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- 4 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報公開をします。
- 5 生産方法などを記録し、定期的に点検・検査を行います。
- 6 後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。

産直品の供給実績（2009年度）

分類	供給高	産直品供給高	産直品構成比
①果物	11.7億円	0.6億円	5%
②野菜	22.5億円	5.7億円	25%
農産(①+②)	34.2億円	6.3億円	19%
③水産	37.3億円	0.3億円	1%
④畜産	25.5億円	6.1億円	24%
⑤日配	61.5億円	10.8億円	18%
⑥米	5.1億円	2.7億円	53%
①～⑥合計	163.6億円	26.3億円	16%
食品合計	244.1億円	26.3億円	11%
総供給高	348億円	26.3億円	7%

産直提携マップ（2010年3月現在）



2009年度は、日本生協連のお問い合わせ管理システム参加や、売り場での表示強化(原産国、製造工場)などを進めました。また、2008年の中国産冷凍餃子事件を受けて組合員のみなさんにお約束した項目を、着実に継続しています。

- 加工食品の原産国(製造国)表示
- 改定した工場点検マニュアルによる工場点検の実施
- 海外製造加工食品の残留農薬検査
- 産直提携先での「公開安全確認会」
- アイコープ商品の特定原材料の確認
- 産直品の入荷・管理の供給を生産者と組合員が確認する「産直業務確認会」

2,694検体で細菌検査を実施

商品検査室では供給する商品の品質・衛生を確保するため自主基準を設定して細菌検査を実施しています。2009年度は2,694検体を検査したほか、外部機関に委託して産直農産物30検体について農薬検査も実施しました。

<品質管理室での細菌検査のおもなもの>

- ① アイコープ商品の定期検査
- ② 店舗生産の寿司・刺身・惣菜・カットフルーツ等の抜き取り検査
- ③ フィッシュセンター・ミートセンター生産品の検査
- ④ 共同購入商品の抜き取り検査、および新規取り扱い商品の事前検査
- ⑤ おせち・オードブル等季節商品の事前検査
- ⑥ 消費期限設定のための保存検査
- ⑦ 腐敗、異臭、異物混入などの申し出があった場合の原因究明のための検査

<細菌検査の結果>

1) 検査目的別検査数

- ① 供給品抜き検査 714件
- ② 新規商品事前検査 697件
- ③ 賞味期限設定 1,757件
- ④ お申し出品原因調査 2,466件
- ⑤ その他 581件

2) 検査対象商品別の内訳

- ① 店舗内加工品 1,101件
- ② パッケージセンター加工品 181件
- ③ 開発商品(アイコープ・アイスタイル) 290件
- ④ 日生協・サンネットコープ商品 70件
- ⑤ NB商品 1,052件

3) 検査の結果

抜き取り検査での不適合は
Dランク0件、Cランク9件、Bランク167件
合計176件発生しました。

※判定評語の意味

- Aランク：取扱基準合格
- Bランク：要注意(取扱を続けながら改善するレベル)
- Cランク：不合格(取扱中止を検討するレベル)
- Dランク：取扱緊急停止

「衛生管理ニュース」を月2回発行し周知徹底

品質管理室では、店舗生鮮部門とパッケージセンター向けに「衛生管理ニュース」を月2回発行、読了率を把握したり、理解度テストをするなど周知徹底を進めています。最近の読了率は95%~98%を確保しており、全員周知が進んできています。

店舗の衛生点検は外部の専門業者に委託しており、2009年春の全店衛生点検の平均点は前回は上回る95.6点で目標達成するなど、衛生管理向上のとりくみを強めています。



日本生協連のお問い合わせ管理システムに参加

日本生協連のコープ商品に関するお問い合わせ・お申し出は専用の管理システム(クイック・プロ)で管理されるようになり、いわて生協もこのシステムに参加しました。このシステムでは複数のお申し出が寄せられるなど事故の可能性がある情報を常に監視しており、商品の異変が疑われる場合はすべての関係者に情報が送られます。また、参加生協で発見された不良品情報等もシステムに蓄積され、情報共有が強まりました。いわて生協でも、この情報をリアルタイムで閲覧できるようになりました。

工場点検を57か所で実施

アイコープ、アイスタイル商品の製造委託先への工場点検は57か所で実施。衛生管理面を中心に要改善事項の指摘を行いました。

「公開安全確認会」で産直品の安全・安心を確認

2003年から続けている「公開安全確認会」（組合員と生協常勤者が、産直品の栽培、肥育、生産、流通に関する約束事の順守を確認）は、2009年度33産地で186人が参加して行われました。生産についての詳しい内容の説明、相互確認はおたがいの信頼をいっそう深める場として定着しています。



2009年盛岡甘熟会の「公開安全確認会」には、釜石コープの組合員が参加。

「業務確認会」で産直品を売場で確認

2004年度からは「産直業務確認会」（生産者と組合員が、いわて生協の店舗や共同購入での産直品の入荷、加工、保管、供給の状況を確認）も行われており、2009年度は12部門で67人の生産者、組合員が参加しました。



ベルフ牧野林農産での業務確認会。

産直野菜は「農薬使用基準」を遵守しています

排除農薬	使用禁止する 14農薬	NAC、ベンゾエピン、ジメトエート、2.4PA、ジネブ、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、カルベントゾール、マラソン、クロルピクリン
排除目標農薬	排除に向けて 計画的に努力する 7農薬	DDVP、キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

輸入品は限定して扱います

輸入農畜産物は扱いを限定。国産が不可能なバナナやグレープフルーツ、生産量や生産時期との関係で国産だけではまかなえないアスパラやブロッコリー、かぼちゃ、低価格の要望にこたえる牛肉などがその商品です。

バナナやグレープフルーツ、牛肉などは、産地提携により農薬の使用状況（不使用）や飼育方法などがわかり、安心して利用できる商品です。



全国の生協と共同して無農薬の広東バナナを取り扱い、毎年産地視察を行っています。

日本農業を守るとりくみを共同で

いわて生協も参加する「いわて食・農ネット」では、「農地法改正」（大企業や外資系企業に農地取得を広げる）についての学習会や要請行動に取り組みました。また「日米FTA」反対を含む政府への要請には21市町村長、7JA組合長から賛同が寄せられ、共同の輪が広がりました。また、「農産物輸入自由化交渉路線の見直しを求め、日米FTAの推進に反対する」県議会請願が採択される成果もありました。



「いわて食・農ネット」で日米FTA推進反対を市町村に要請。

❖ 店舗事業

店舗の更新が一巡しベルフ型店舗が中心に

20年前いわて生協が旧生協から引き継いだ店舗は、古く狭く駐車場も不足で、組合員の生活に対応できなくなっていました。この15年間、新店とともに店舗更新を進め、2008年度のベルフまつぞの（盛岡市）の建て替えオープン、2009年の新店ベルフ牧野林（滝沢村）オープンに続き、2010年ベルフ西町（宮古市）の建て替えオープンで店舗更新の事業が一巡します。

老朽店舗がなくなり、生鮮強化と十分な品揃えができる売り場面積、駐車場を拡大したショッピングセンター型、ベルフ型店舗が12店中9店舗になります。

2009年7月オープンしたベルフ牧野林（滝沢村）。



2010年7月オープン予定のベルフ西町（宮古市）。

店舗機能を幅広く発揮

いわて生協の店舗は、組合員や地域の交流・情報発信の拠点として役割を發揮しています。

組合員のサークルは全店で103サークルが登録。多彩な活動を進めています。また、「くらぶ」や「コープ子育てひろば」「お母さんの元気づくり講座」等の活動の場として大きな役割を果たしています。



コープアテルイ2階ホールを会場に活動しているいはなサークル。

障がい者団体や町内会との共同・交流も

コープアテルイ（奥州市）では「あべじゃネット」（授産事業県南ネットワーク：43施設）の定期販売会がスタート（2009年度は10回20日間開催）。地域の障がい者団体が手作りの作品、生産品を大規模に販売し、障がい者の自立や社会参加の問題を多くの住民とともに考えていく場になっています。

ベルフ山岸（盛岡市）の地域懇談会では町内会からも参加いただき、町内会や高齢者層の声を店舗運営にいかすとりくみを続けています。2009年8月の懇談会には9町内会から45人に出席いただきました。



「あべじゃネット」の定期販売会スタート（コープアテルイ）。



山岸の敬老会向け赤飯弁当を囲み、町内会のみなさんと懇談会（09年8月ベルフ山岸）。

商品や店舗運営に関する組合員の声の集約

組合員の声は常勤者が内容を記述した「声の記録」で集約しています。2009年度は6,215件が寄せられ、店舗、商品部、店舗運営部等に報告するとともに、日常の仕事改善に生かしています。

- 商品・運営についての苦情 714件
- おほめ、感謝の声 697件
- 意見・要望 1,757件
- 問い合わせ 2,466件
- その他 581件

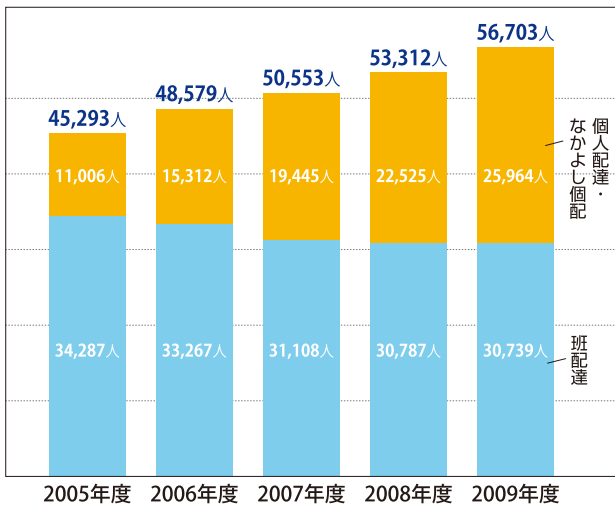
◆ 共同購入・個配事業

毎週5万人が利用する事業に成長

共同購入は、商品案内チラシを見て注文していただき翌週配達する無店舗の供給事業です。

2009年度は毎週の利用人数が5万人を突破し、県内世帯数比は11.3%まで高まりました。配達方法は「個人配達」、「なかよし個配」（2人利用）、「班配達」（3人以上利用）の3パターンあり、「個人配達」利用者が年々増えています。

利用者数（各年度末のOCR発行人数）



特に喜ばれている「個配優遇制度」

赤ちゃんがいたり、高齢、障がいでお買い物ができない方の配達料を100円（通常は1回240円）にする「個配優遇制度」の利用は急速に増えており、2010年度には介護優遇制度も予定されています。

優遇対象者(配達料金が1回100円に)	利用人数	割合
母子手帳が発行されてから、満3歳の誕生日までのお子さんがある方	3,316人	12.7%
70歳以上で単身、または夫婦世帯で一方が70歳以上	5,042人	19.3%
障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	3,034人	11.6%
計	11,392人	43.6%

また、法人（幼稚園・保育園・グループホームなど）の加入と利用も増えており、2009年度は50法人・80施設で利用されています。

10支部で県内全域をカバー

県内どこでも共同購入が利用できる体制をめざし、支部の新設・建て替えを進めてきました。2010年8月に釜石支部が新築移転する予定で、県内10支部で老朽施設がなくなります。



2009年8月に新設・移転したけせん支部。

インターネット注文も本格化へ

インターネットサービス「eフレンズ」の登録は約8,000人になり、インターネット注文の実利用は週平均800人です。今後、しくみ改善を進め、さらに利用しやすいものにしていく計画です。



「eフレンズ」のログイン画面。

灯油事業 4,029万円を還元

灯油供給事業は、利用登録者数43,994人（前年比100%）、供給量35,020kℓ（前年比105%）でした。灯油価格は原油高が続く中で暫定価格を設定し、1,000ℓ以上1円値引きも合わせて、冬季還元額は総額4,029万円になりました。

朝配達牛乳事業は黒字に

朝配達牛乳事業は、利用人数が12,978人（前年比94%）と減少しましたが、価格改定等損益改善を強めた結果、黒字を確保できました。

❖ 共済事業

いわて生協の保有は8万8千件、くらしになくてはならない保障制度に

生協の共済は、全国の組合員の助け合いを形にした「保障のコープ商品」です。

いわて生協の共済契約保有件数は、2010年3月で8万8,339件（前年比106%）となりました。

共済金のお支払い件数も1万1,433件、6億5,951万円とくらしになくてはならない保障制度になってきています。

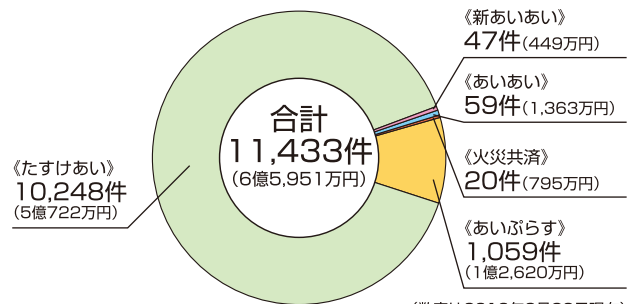


共済カウンターは、ペルフェ野林に続いて、2010年4月21日コープアテルイにも開設しました。

共済加入件数（2009年度）

種類	加入件数	純増	保有件数	前年比
たすけあい	8,149件	2,226件	63,547件	103%
あいぷらす	4,100件	2,755件	19,695件	117%
火災共済	348件	181件	4,620件	104%
新あいあい	97件	97件	272件	155%
あいあい	募集停止	▲169件	205件	43%
合計	12,694件	5,090件	88,339件	106%

共済金の支払件数（2009年度）



❖ 介護・福祉事業

利用者サービスの向上により事業の基盤が固まってきました

いわて生協の介護・福祉事業は「地域で安心して暮らせるように」との組合員の願いからスタートしました。

2009年度は「居宅介護支援（ケアプラン）」「訪問介護」「福祉用具貸与」の3分野とも利用が着実に増加。この5年間の活動が評価されて事業の基盤が固まってきました。介護報酬改定や「特定事業所Ⅱ」の取得認定により収入が増え、利用者サービスの向上を図りました。

また、介護・福祉事業を知らせる「あい委員会」の活動、組合員の「コープくらし助け合いの会」や外部団体「ワーカーズコープくらしいきいき応援隊」との連携も強まり、福祉の輪が広がっています。

事業	2009年度の利用者数	前年比
居宅介護支援(ケアプラン)	2,736人	113%
訪問介護	847人	116%
福祉用具貸与	1,175人	137%



介護・福祉センター「あい」では、福祉用具を展示し、販売・レンタルしています。

❖ 葬祭事業

セリオホールは盛岡で3館目が開館 宮古での開設を準備中

いわて生協の葬祭事業は「人生の最後の儀式だからまごころを込めて」「納得できる適正な価格で」という組合員の願いに応えて1993年にスタート。その後「通夜、葬儀ができる施設」を求める声が高まり、「セリオホール」を盛岡市内に開設。2009年度は3館目の「セリオホール緑が丘」を11月にオープンしました。

セリオ葬に期待する声が県内各地で強まっていることから、地元業者との提携による事業展開も行い、花巻市、北上市、Aコープ北東北「セレモニーホール」（盛岡市仙北）もご利用いただけるようになりました。今後は、宮古市でセリオホールを開設（2011年度予定）するため、準備活動が始まっています。

2009年11月にオープンしたセリオホール緑が丘。

2009年度の利用状況

セリオホール中野	239件
セリオホールみたけ	219件
セリオホール緑が丘	33件
セレモニーホール	22件
花巻・北上	8件
合計	521件



❖ サービス事業

住まいと暮らしのサービスセンター（旧家電センター）

2009年度までの「家電センター」は、業務を拡大し2010年度より「住まいと暮らしのサービスセンター」に名称変更。地元を中心とした業者との提携により住関連、省エネ設備、家電をはじめ、住まいと暮らしの各種サービスをご案内、生活の幅広いシーンにキメ細かく対応しています。

主なサービス内容

- エクステリア全般
- エコガラス全般
- 車検、タイヤ
- シロアリ対策
- 太陽光発電
- 引越し各社あっせん
- 配管クリーニング
- ガス器具、石油給湯器
- めがね
- ピアノ調律
- ストープ分解掃除
- など

公開10周年を迎えた南昌荘

盛岡市「保存庭園」「保存建物」の指定を受けている南昌荘は、いわて生協の発足10周年記念事業として2000年より一般公開スタート。以来、多くの市民や観光客の安らぎの場として、また近年は様々な作品展や催し物会場としても人気が高まり、2009年度は15,509人が入園。累計入園者は18万人を超えました（2010年5月8日）。

- 休館日／月・火曜日 年末年始
- 開館時間／10～17時（12～3月は16時）
- 入園料／大人200円 小・中学生100円



明治18年頃、盛岡出身の実業家瀬川安五郎の邸宅として建てられました。盛岡では数少なくなった明治時代の建物で、保存を望む多くの声に応えていわて生協が保有、維持管理と公開を行っています。

コープくらしの助け合いの会

「困ったときはおたがいさま」の気持ちを出発点に、1992年に発足。会員制の有償ボランティアで、高齢者や体の不自由な方、産前産後の方への家事・生活援助（掃除や家の中の片付け、洗濯、食事づくり、話し相手など）、託児や乳幼児の世話などを行っています。現在、盛岡・花巻・北上・奥州・一関・宮古・釜石・けせんの各地域で活動し、会員数は1,163人。2009年度の活動は、のべ20,873時間（前年24,107時間）でした。

活動会員	362人
利用会員	625人
賛助会員	176人
合計	1,163人

※いわて生協の組合員ならどなたでも入会でき、会員の種類の変更や退会はいつでもできます。

ふれあいお茶っこ会

同じ地域にくらす人々みんなで支えあって生きていこうと、盛岡医療生協といっしょにミニデイサービス「ふれあいお茶っこ会」を1999年から取り組んでいます。2009年度は、盛岡市内11か所で88回開催、1,435人の高齢者やボランティアが参加しました。



レクリエーションや昼食会などで楽しいひとときを過ごしています。

非営利の助け合い組織を応援しています

くらしいきいき応援隊

「くらしいきいき応援隊」は、働く人が資本と労働力を持ち寄り、みんなで運営していく「ワーカーズ・コープ（働く人の協同組合）」。いわて生協が支援し、2007年7月に盛岡地域で立ちあげました。

「自分のできることで役に立ちたい」「定年後もまだまだ元気に働きたい」といった方が参加し、「コープくらしの助け合いの会」では対応しにくい要望（高齢や産前産後などではないが、手助けがほしい方など）にえています。2009年度は、91人の応援隊メンバーが11,761時間をこえる応援を行いました。



ワーカーズコープでは男性もいきいきと活動。庭木の剪定や植木の移植、畑や花壇づくり、家具の移動、通院介助、犬の散歩などを応援。

NPO法人もりおか配食サービス

いわて生協が支援して2000年に発足したNPO法人。「一日一食だけでもしっかりとした食事が取れるので安心です」「いつもおいしいお弁当ありがたく思っています」「安否確認をしてもらい安心です。ボランティアさんとのお話も楽しみです」等の声を励みに、お弁当を届けて10年、40万食を超えました。

いわて生協から仕入れた食材を使い、衛生管理に注意しています。また、栄養バランスを考えて食材は多品目、塩分・カロリーを控えめにした安全・安心のお弁当です。配達ボランティアが一声かけながらお届けしています。

会員数（2010年3月現在）

事業	個人	前年比	計
会員	620	+64	684
利用会員	414	±0	414
協力会員	76	+1	77
賛助会員	130	+63	193

■営業日数／252日

■配食数／1日あたり（平均）
56.57食

■配達回収人数／のべ6,178人



配食ボランティアのみなさんが活動をえています。

ふれあいサロン

傾聴ボランティア養成講座を受講したメンバーを中心に、誰もが気軽に集まれる地域のふれあい交流の場として、生協店舗で開催。コーヒーやお茶を飲みながら、おしゃべりをします。盛岡医療生協の協力で、健康チェックや骨量チェック、セラバンド体操なども行っています。「このところ人と話をしていなかった」という一人ぐらしの男性や、親子（60代と90代）「家ではなかなかおしゃべりもしないから」など、毎回開催を待っている方もいます。

★2009年度は2会場で開催

ベルフまつぞの	第3火曜日10:00～12:00
ベルフ青山	第3水曜日10:00～12:00

参加は無料で、いつでも誰でも好きな時間に来て好きな時間に帰るフリータイム制です。毎回20～30人の来場があり、15人前後の登録ボランティアが1回7～8名で対応しています。



12回開催し、255人が参加しました。



気軽に集まり自由なおしゃべりを楽します（ベルフまつぞの）。

のべ鑑賞者が47,000人超える 文化鑑賞会「クオレ」

“すぐれた芸術や文化を共同購入しよう”と1999年に発足した会員制の文化鑑賞会「クオレ」。月会費（月1,575円）で、年3～4回の例会に参加できます。10年間で31例会になり、鑑賞者はのべ47,315人に達しました。会員数は2,100人。クオレ沿岸運営委員会も発足しており、例会の沿岸開催実現をめざしています。



ユニセフ募金は20年間で9,326万円にも！

「わが子への愛を世界の子どもたちに」というお母さんの願いをもとに、いわて生協は1990年の創立以来、ユニセフの活動に取り組んでいます。

店舗・共同購入での「ファミリー募金」「緊急募金」、ボランティアによる「ハンド・イン・ハンド募金」(12月)などを通し、2009年度は655万円を超える募金が寄せられました。

また、北海道・東北の生協がいっしょに2005年度から取り組んでいるのが、「ネパール指定募金」。ファミリー募金のうち180万円が、ネパールの子どもたちや母親を対象にしたユニセフ活動に使われています。

2009年度いわて生協に寄せられたユニセフ募金

ファミリー募金 (お年玉3,010円・カレンダー募金38,834円含)	282万4,502円
ハンド・イン・ハンド(12月)	43万5,900円
スマトラ・サモア緊急募金(126万9,562円) ハイチ緊急募金(202万5,519円)	329万5,081円
2009年度 合計	655万5,483円
累計 (1990~2009年度)	9,326万1,107円

ハンド
イン
ハンド

世界の子どもたちのために、
募金をお願いします！

12月に全国一斉に行う街頭募金に、2009年はいわて生協だけで18会場・総勢448人のボランティアが参加。高校生以下の参加も多く、元気な声で呼びかけました。



ユニセフ
委員会

「募金は役に立っているの？」
現地を視察し、報告活動

指定募金先のネパールへの「ユニセフスタディツアー」(2008年)に続き、2010年はブータンに組合員代表を派遣予定です。募金がどのように役立っているかを視察し、報告会なども開催。ユニセフ委員会では県支部とともに、ユニセフについて理解を広げる企画にも取り組んでいます。



紙芝居で視察報告(2010年3月「いわてユニセフのつどい」)。

子どもたちと
ママ&パパを応援

子どもたちのために、またお母さんやお父さんの子育てを応援するために、こんなことができたらいいな…という思いを協同の力で一つひとつ実現し、広げています。

コープ子育てひろば

乳幼児をもつママたちが、子どもと一緒にホッとリラックスしてすごせる「親子の遊び場」。5店舗の組合員施設で、毎月1~2回開催。2009年度は342組753人の親子が参加しました。

会場(店舗の組合員施設)

ベルフ仙北 ベルフ山岸
ベルフまつその ベルフ青山
コープ関COLZA



広がる「お母さんの元気づくり講座」

2009年度は9コープ19会場で開催、391人が参加しました。「親子体操」「野菜ソムリエ手作りかんたんおやつ教室」など活発に取り組みられています。



核兵器の廃絶と平和な世界を願って行動

2010年5月にニューヨークで開催されたNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議での平和行動には、いわて生協から2人の組合員代表が参加。炎天下、被爆者や全国の生協の仲間とともに各国に核兵器の廃絶を訴えました。



1万人が行進したニューヨークでの平和パレード(2010年5月2日)。

夏の全国生協の「ピースアクション」には組合員のカンパで16人が参加。被爆地での行動や交流の様子を各地の組合員に広げる活動を続けています。



盛岡市高松の池に建てられた平和祈念像「望み」の前で、毎年8月9日に開催している「平和のつどい」。幅広い世代が参加して、平和への決意を誓い合います。



平和憲法・9条を守る活動

いわて生協も参加する「平和憲法・9条を守る岩手の会」は発足5周年。県内各地の「9条の会」が集う「平和憲法・9条を守る全県交流会」も恒例になりました。



2009年11月の全県交流会では、伊藤真さん(弁護士)が平和憲法について講演。

映画
「いのちの山河」

大反響！
県内2万3千人が鑑賞

いわて生協も進めた映画「いのちの山河」製作・上映運動は、大きなうねりとなって各地に広がっています。県内では29会場で125回上映され、2万3,375人が鑑賞。全国的に上映運動が取り組まれており、老人医療費無料化、乳児死亡率ゼロを実現した深沢村長の実践は深い感動を呼び起こしています。

ポラン農業小学校（子ども農業体験）

退職した先生方や地域の方の協力も得て取り組んでいます。毎年30～40人の小学生が参加し、西和賀の豊かな自然へ月2回、1年間を通じて参加。学校運営にも主体的に関わり、「生きる力」を育てています。



岩手県教育委員会に要請書を提出

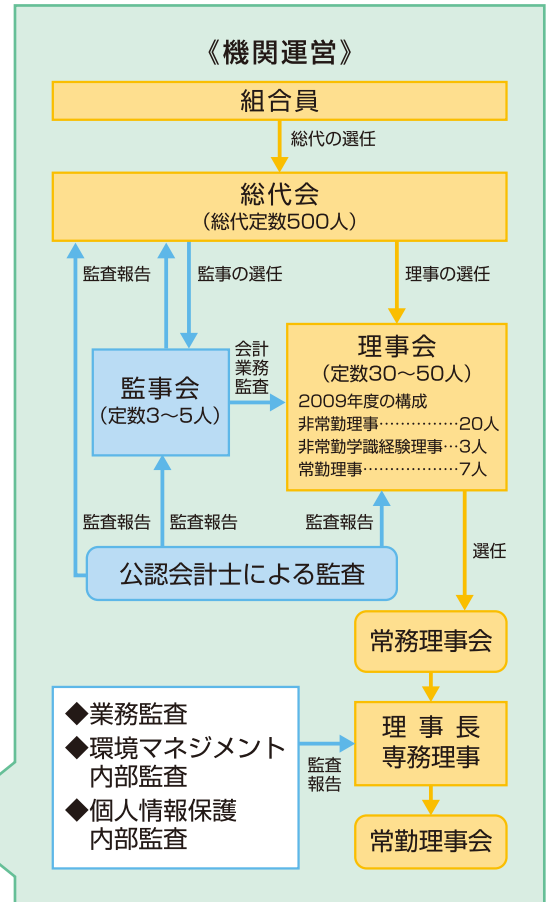
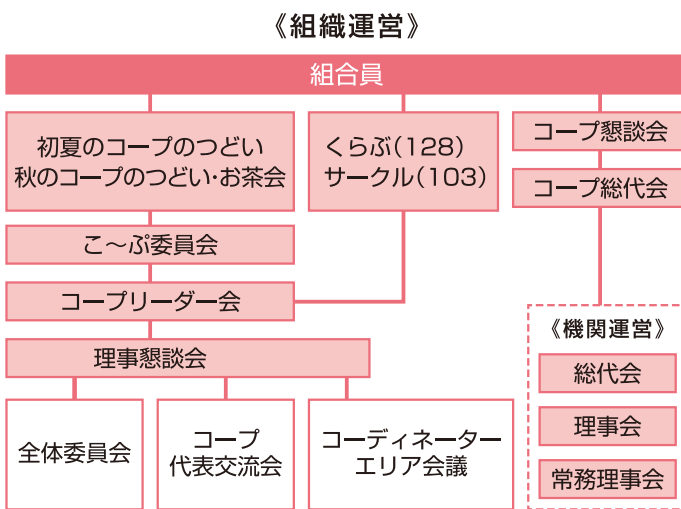
子どもたちの学習環境の向上のために「30人学級を実現する岩手の会」と一緒に、県教育委員会へ要請を続けています。2010年度は、中学1年生の35人学級が全面実施されることになりました。



❖ いわて生協の組織・機関運営

生協（生活協同組合）は、一人では力の弱い生活者・消費者が、力をあわせて「よりよい暮らしを実現しよう」とつくっている組織です。そのために、事業のもととなるお金「出資金」を組合員みんなでもし合い、要望にもとづいた事業をみんなでも「利用」し、話し合いや活動に参加したり、意見を出すことにより、みんなでも「運営」しています。

また、最高議決機関である総代会のもと執行機関である理事会やその執行を監査する監事の役割機能強化などのガバナンスの強化にも取り組んでいます。



❖ 地域に根ざした生協をめざし、16地域（コープ）で運営

地域の運営・活動の中心「コープリーダー会」

16の地域（コープ）ごとに、こ〜ぶ委員会からの代表が集まり、地域の組合員の願いにそった活動をすすめます。店舗や共同購入への意見を出し合ったり、産直交流の企画や、コープ商品の試食会など多彩に行っています。

組合員だれもが参加できる「コープのつどい」

年2回（初夏と秋）開催され、暮らしの中の問題を考えあったり、生協の商品を試したり、生協への意見を出し合います。2010年度は、いわて生協20周年がテーマです。



毎月楽しく集まる「こ〜ぶ委員会」

県内には170のこ〜ぶ委員会が作られ、900人のこ〜ぶ委員さんが活動。月1回集まり、コープ商品を囲んで、生協や暮らしのことを話し合います。コープのつどいの開催や、地域の組合員の要望にそったの企画も行っています。

ご近所集まってわいわい話し合う「お茶会」

班はいっしょに共同購入を利用するだけでなく、「お隣近所や地域での交流・助け合いの場」としても大切にしたい集まりです。「秋のコープのつどい」のあとは、「お茶会を機会に集まりましょう」と呼びかけています。「お茶会」は3人以上集まれば開催でき、お茶会商品も無料で試すことができます。

❖ 理事会で内部統制の方針・構築計画を決め、構築を進めました

内部統制システムの構築

いわて生協の事業・経営の質を高め、新しい発展軌道に乗せるため、“基盤づくり”の一つとして「業務の有効性及び効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」の4つの目的を達成するため、『内部統制システム構築の基本方針』『整備基本計画』を理事会決定し、計画的構築をすすめています。

情報の保存・管理

計画に沿って規程類の策定・改定を行いました。あわせて、すべての既存規程類について、規程管理規則にもとづく形式に整備・統一し、規程類の保持体制も再確立しました。

リスクの洗い出し・分析・評価

事業・活動で想定されるリスク(281項目)を洗い出し、発生頻度と影響度の分析・評価を行いました。この分析・評価をもとに重点リスクを特定し、リスク回避・マイナス影響を最小限に低減するリスクコントロールをすすめています。リスクの洗い出し、分析・評価は定期的を実施します。

コンプライアンス・法令遵守 コンプライアンス自主行動基準を決定

事業や活動に関わる法令や倫理、社会的な約束ごと、組織内の規則・ルール等を守り、いわて生協の理念と目的を実現していくためにコンプライアンス自主行動基準を決めました。

全常勤者がこの自主基準を学習し、年度末に「自己点検・評価(セルフチェック)」を行っています。

法令の学習会を開催

職種別のコンプライアンス講座を開催し、業務に関係する法令および組織内の基準・ルールの教育を行いました(商務コース・店長



コンプライアンス講座(商務コース)

コース・支部長コースの3コースを実施)。職種別の教育は、今後も継続します。

法令の“見える化”、確実な手続・届出

事業・経営に関係する法令の一覧化(見える化)を行い、法令で規定されている「許認可・届出」対応が確実に実行できるしくみをつくり、運用を始めました。法令の制定・改定に対応できるしくみとなっています。

内部監査機能

業務監査

方針や決めたことがどこまで浸透し、実施されているか、実態と問題を把握するため業務監査を実施し、把握された問題については、リスク対策会議の中で、本部の役割機能の見直しも含めて、順次改善を継続しています。

個人情報保護内部監査

2009年度は36の対象事業所について実施。不備な点については是正指示を行い、改善をしています。是正指示件数は23件で、前年より半減しています。

相談・通報機能

内部通報制度

常勤者が法令遵守に関する相談や通報を直接行える制度を、2006年度から導入しました。(直通電話：経営企画室)

職場110番

常勤者がおもに職場の悩みや職場環境、労働条件について、直接相談したり通報できるしくみをつくっています。

お取引先コンプライアンス窓口

コープ東北サンネット事業連合といっしょにお取引先コンプライアンス窓口を第三者機関に設置し、7月からスタートします。



いわて生協常勤者の 行動基準

- 1 いわて生協のめざすもの P2
- 2 常勤者の行動指針 P2
- 3 コンプライアンス自主行動基準 P3-P13
- 4 地域発生の行動基準 P14
- 5 新型コロナウイルス発生段階に応じた感染防止策(行動) P15
- 6 協同組合とは(定章)(会則)(原則) P16

協同組合
 氏名 氏名
 COOP いわて生活協同組合